

～ 2年生 ～

科目をクリックするとシラバスが表示されます

国語

[論理国語](#)

公民

[公共](#)

数学

[数学II](#)

理科

[化学基礎](#)

保健体育

[体育](#)

[保健](#)

外国語

[英語コミュニケーションII](#)

家庭

[家庭総合](#)

商業

【総合ビジネス科】

[ソフトウェア活用](#)

[マーケティング](#)

[観光ビジネス](#)

[原価計算](#)

[財務会計I](#)

【情報処理科】

[ソフトウェア活用](#)

[プログラミング](#)

[マーケティング](#)

[財務会計I](#)

【国際ビジネス科】

[ソフトウェア活用](#)

[ビジネスコミュニケーション](#)

[マーケティング](#)

[観光ビジネス](#)

[総合的な探究の時間](#)

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2
教科書（出版社）	論理国語（大修館書店）				
副教材（出版社）	LT 現代文（浜島書店） 常用漢字の1・2トライ（浜島書店）				
授業の概要	近代以降の様々な文章を通して、思考力・判断力・表現力を養い、ものの見方、考え方を順序だてて深めていく力を高める。				
授業の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。				

年間 学習 計画	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
	1 学期	評論 「家族化するペット」 「ミロのヴィーナス」 「敬語への自覚、他者への自覚」 表現 具体的／抽象的に書く	<ul style="list-style-type: none"> 文章をふまえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉える。 人間、社会、自然に関する文章を手掛かりに、多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深める態度を養う。 情報を重要度や抽象度などに分けて整理する方法への理解を深める。
	2 学期	評論 「社会的実在としての言語法・貨幣」 「自己をモデル化する知能」 「心に『海』を持って」 表現 立場を明確にして書く	<ul style="list-style-type: none"> 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらい旨を把握する。 人間、社会、自然に関する文章を手掛かりに、多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深める態度を養う。 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の工夫を身に付けて文章を書く。
	3 学期	評論 「スキーマと記憶」 「世界を広げる『批評の言葉』」	<ul style="list-style-type: none"> 文章をふまえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉える。 複数の文章や資料を基に、必要な情報を関連付けて自分の考えを広めたり深めたりする態度を養う。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げようとしたり、深めようとしたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。
評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> 観察・定期考査 小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 観察・ノート・ワークシート 定期考査・課題・発表 	<ul style="list-style-type: none"> 観察・ノート・ワークシート 課題・発表



教科	公民	科目	公共	単位数	2
教科書 (出版社)	公共 (実教出版)				
副教材 (出版社)	公共 演習ノート (実教出版)				
授業の概要	倫理的分野、政治的分野、経済的分野について社会的な見方・考え方を働かせながら、自身の経験や現代社会の諸課題を事例にしながらより良い人間や社会の在り方を追求する。				
授業の目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の優位な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				

年間 学習 計画	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
	1 学期	第1部 公共の扉 1 社会を作る私たち 2 人間としてよく生きる 3 他者とともに生きる 4 民主社会の倫理 5 民主国家における基本原理	<ul style="list-style-type: none"> 自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解する。 社会に参画する自立した主体とは、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現する
	2 学期	第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち 1 日本国憲法の基本的性格 2 日本の政治機構と政治参加 3 現代の経済社会	<ul style="list-style-type: none"> 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配などの基本的原理について理解する。 法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野にいれながら事実を基に協働して考察したり、論拠をもって表現する。
	3 学期	4 日本経済の特質と国民生活 5 国際政治の動向と課題	<ul style="list-style-type: none"> 現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の配分が図られること、国民福祉の向上に寄与する役割を政府などが担っていること、経済活動と個人の尊重を共に成立させることが必要であることについて理解する。 法、政治及び経済などの側面を関連させ、解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、事実を基に協働して考察したり、論拠をもって表現する。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	<ul style="list-style-type: none"> 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。 諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めようとしている。
評価 方法	定期考査 ワークシート 授業中の観察	定期考査 ワークシート 授業中の観察	ワークシート 学期ごとの振り返りシート



教科	数学	科目	数学Ⅱ（2年）	単位数	2
教科書（出版社）	新編 数学Ⅱ（数研出版）				
副教材（出版社）	新課程 3 TRIAL 数学Ⅱ（数研出版）				
授業の概要	数学Ⅱの第1章 式と証明、第2章 複素数と方程式、第3章 図形と方程式、第4章 三角関数の内容について扱う。				
授業の目標	「数学Ⅰ」の内容を発展、拡充させた式の計算、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数の考えについて理解させ、指数関数、対数関数、微分・積分への系統性を踏まえた基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。				
年間 学習 計画	学期	学習内容（単元・項目）		学習目標	
	1 学期	1章 式と証明 1節 式と計算 2章 複素数と方程式 1節 複素数と2次方程式の解		<ul style="list-style-type: none"> ・整式の除法や分数式の四則に関心をもち、計算に取り組むことができる。 ・数の範囲を複素数まで拡張する必要性と意味を理解することができる。 ・解と係数の関係や判別式の意味を理解することができる。 	
	2 学期	3章 図形と方程式 1節 点と直線 2節 円 3節 軌跡と領域		<ul style="list-style-type: none"> ・座標を用いて、点の位置や2点間の距離を求める解析幾何的な考え方に関心をもち、積極的に活用することができる。 ・直線を方程式で表わすことに関心をもち、直線の方程式を活用して二直線の位置関係を調べることができる。 ・円の方程式を求めることができる。 ・不等式の表す領域を図示することができる。 	
	3 学期	4章 三角関数 1節 三角関数		<ul style="list-style-type: none"> ・一般角や弧度法概念を認識できる。 ・三角関数のグラフを活用して、周期や最大・最小などの基本的な性質を理解できる。 ・三角関数の値や三角関数に関する方程式、不等式の解を求めることができる。 	

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	<ul style="list-style-type: none"> ・複素数という数の必要性を理解することができる。 ・直線の方程式を活用して、二直線の位置関係を調べることができる。 ・2点間の距離の公式や2次方程式を活用して、問題を解くことができる。 ・一般角や弧度法について理解し、グラフや単位円を活用して、三角関数の方程式を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習した計算の方法と関連付け、式を目的に応じて適切に変形することができる。 ・円の方程式を求める方法を考察することができる。 ・様々な事象を数学的に捉え、これまで学習した内容を問題解決に活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し、問題解決に数学を活用しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察したり、評価・改善したりしようとしている。
評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシート ・観察 ・課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシート ・観察 ・授業ノート 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・課題 ・振り返りシート



教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2
教科書（出版社）	高等学校 新化学基礎（第一学習社）				
副教材（出版社）	新課程版 プログレス化学基礎（第一学習社）				
授業の概要	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、化学的に探究していく。				
授業の目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を化学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。				
年 間 学 習 計 画	学期	学習内容（単元・項目）		学習目標	
	1 学 期	第1章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素 第2節 化学結合		<ul style="list-style-type: none"> 身近な物質を取り上げ、混合物から純物質を分離したり精製したりする実験などを行い、実験における基本操作と科学的に探究する方法を身に付ける。 身近な物質を取り上げ、元素を確認する実験などを行い、単体や化合物について理解する。 粒子の熱運動と粒子間に働く力との関係により、物質の状態変化が起こることを理解する。 原子の構造および陽子、中性子、電子の性質を理解する。 元素の周期律および原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。 イオンの生成を電子配置と関連付けて理解するとともに、イオン結合がイオン間の静電的な引力による結合であることや、イオン結合でできた物質の性質を理解する。 共有結合を電子配置と関連付けて理解する。 共有結合でできた物質の性質を理解する。 金属結合は自由電子が介在した結合であることを理解する。 金属結合でできた物質の性質を理解する。 	
	2 学 期	第2章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式 第2節 酸・塩基とその反応		<ul style="list-style-type: none"> 粒子の数にもとづく量の表し方である物質の概念を導入し、物質と質量、物質と気体の体積との関係について理解する。 化学反応に関する実験などを行い、化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解する。 酸や塩基に関する実験などを行い、酸と塩基の性質および中和反応に関与する物質の量的関係について理解する。 	
	3 学 期	第3節 酸化還元反応		<ul style="list-style-type: none"> 酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。 	
学習の評価					
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に取り組む態度
評価 規 準	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。		自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ワークシート 		<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ワークシート 		<ul style="list-style-type: none"> 課題 授業ノート ワークシート 観察



教科	保健体育	科目	体育	単位数	2
教科書（出版社）	現代高等保健体育（改訂版）（大修館）				
副教材（出版社）	現代高等保健体育ノート（改訂版） ステップアップスポーツ2022				
授業の概要	各学期に種目を選択し実技を行う。授業展開としては集合・整列・挨拶、準備運動、補強運動、主運動、整理運動、集合・整列・挨拶という流れとなる。体育理論も行う。				
授業の目標	主体的に運動に親しみ、仲間と協力して取り組むことにより、基礎体力の向上、協調性、ルールを遵守することの大切さを身に付ける。				

	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
年間 学習 計画	1 学期	○集団行動 ○体づくり運動 ○ラジオ体操 ○選択種目Ⅰ ・陸上競技 ・器械運動 ・ダンス から1種目を選択	<ul style="list-style-type: none"> ・素早く正確に指示通りに行動することができる。 ・自分や仲間の体と心の変化に気付くことができる。 ・各種目特性を理解して、自ら積極的に取り組むことができる。また、意欲的に技術や戦術の向上を目指して運動に親しむことができる。 ・ルールを理解して、公正な態度で授業に取り組むことができる。 ・仲間と協力して準備や片付けを行うことができる。 ・安全に配慮した行動がとれるようになる。
	2 学期	○選択種目Ⅱ・Ⅲ ・柔道 ・ソフトボール ・硬式テニス ・ハンドボール ・サッカー ・バレーボール ・バドミントン から前・後半各1種目の計2種目を選択 ○体育理論 2単元 運動・スポーツの学び方 1 スポーツにおける技能と体力 2 スポーツにおける技術と戦術 3 技能の上達過程と練習 4 効果的な動きのメカニズム 5 体力トレーニング 6 運動やスポーツでの安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・各種目特性を理解して、自ら積極的に取り組むことができる。また、意欲的に技術や戦術の向上を目指して運動に親しむことができる。 ・ルールを理解して、公正な態度で授業に取り組むことができる。 ・仲間と協力して準備や片付けを行うことができる。 ・安全に配慮した行動がとれるようになる。 ・発揮する状況の違いによって技術の種類が違うことを理解する。 ・技能の上達過程の段階や特徴及び目的に即した効果的な練習方法があることを理解する。 ・効果的な体力トレーニングの方法を理解する。 ・活動に伴う危険性を理解し健康や安全に配慮できる。
	3 学期	○選択種目Ⅳ ・ラグビー ・卓球 ・バスケットボール から1種目を選択	<ul style="list-style-type: none"> ・各種目特性を理解して、自ら積極的に取り組むことができる。また、意欲的に技術や戦術の向上を目指して運動に親しむことができる。 ・ルールを理解して、公正な態度で授業に取り組むことができる。 ・仲間と協力して準備や片付けを行うことができる。 ・安全に配慮した行動がとれるようになる。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性や技能の要点を知っている。 ・ルールを理解し、審判や係の仕事を行うことができる。 ・運動の特性に応じた技能を身に付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能の要点を意識した練習ができる。 ・課題解決に向けて練習計画を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わおうとしている。 ・練習場や用具などの安全を確かめようとしている。
評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト



教科	保健体育	科目	保健	単位数	1
教科書（出版社）	現代高等保健体育（改訂版）（大修館）				
副教材（出版社）	現代高等保健体育ノート（改訂版）				
授業の概要	教科書の内容を中心に講義を展開していく。教科書読みや質疑応答、ペアディスカッションなどをおしながら知識の理解を深めていく。ノートを使いながらまとめを行う。				
授業の目標	社会情勢の急速な変化に対応し、生涯を通じて重要な土台となる健康について、これから生きていく社会の中で考えていける力を身に付ける。				
年間 学 習 計 画	学期	学習内容（単元・項目）		学習目標	
	1 学 期	3単元 生涯を通じる健康		<ul style="list-style-type: none"> ・思春期における心身の発達や健康課題について特に性的成熟に伴い、心理面、行動面が変化することについて理解する。 ・健康な結婚生活について、それぞれの心身の発達や健康状態を知ることの大切さを理解する。また、妊娠、出産に伴う健康課題について理解し、適切に対処する方法を理解する。 ・加齢に伴う心身の変化について、形態面及び機能面などの側面から理解する。高齢社会の到来に対応して、保健、医療、福祉の連携と総合的な対策が必要であると理解する。 	
		1 ライフステージと健康			
		2 思春期と健康			
		3 性意識と性行動の選択			
		4 妊娠・出産と健康			
		5 避妊法と人工妊娠中絶			
		6 結婚生活と健康			
	7 中高年期と健康				
2 学 期	8 働くことと健康		<ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意義を理解する。労働災害の防止には作業形態や作業環境の改善を含む健康管理と安全管理が必要であると理解する。 ・人間の生活や産業活動に伴う大気汚染、水質汚濁、土壌汚染について健康への悪影響や被害をもたらすことを理解する。 ・環境対策について法的な整備を始め、総合的で計画的な対策が講じられていることを理解する。 		
	9 労働災害と健康				
	10 健康的な職業生活				
	4単元 健康を支える環境づくり				
	1 大気汚染と健康				
	2 水質汚濁・土壌汚染と健康				
	3 環境と健康にかかわる対策				
4 ごみの処理と上下水道の整備					
3 学 期	5 食品の安全性		<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性を確保するように基準が設定され、それに基づき食品衛生活動が行われていることを理解する。 ・人々の健康を守るための保健・医療制度があることを理解する。どのようなサービスが提供され、その情報をどのように知ることができるかを理解する。 ・医薬品の種類について理解し、主作用や副作用などの医薬品個々の特性があることを理解する。 		
	6 食品衛生にかかわる活動				
	7 保健サービスとその活用				
	8 医療サービスとその活用				
	9 医薬品の制度とその活用				
	10 さまざまな保健活動や社会的対策				
11 健康に関する環境づくりと社会参加					
学習の評価					
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
規 準	生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題解決に役立つ基礎的な事項を理解し知識を身に付けている。その知識を実生活に結び付けて活用することができる。		個人及び社会生活における健康や安全に関する課題解決を目指して、総合的に考え、選択すべき行動を適切に判断することができる。		個人及び社会生活における健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組もうとする。
評 価 方 法	観察、発表、ノート、ワークシート、ペーパーテスト				



教科	外国語（英語）	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	2
教科書（出版社）	VISTA English Communication II（三省堂）				
副教材（出版社）	VISTA WORK BOOK（三省堂）、Word-Meister 1700、Training Note②（第一学習社）				
授業の概要	題材となる英文を読みながら、その内容を理解するとともに、主な表現に焦点をあてて英語のコミュニケーション場面での表現を学習する。				
授業の目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり伝えたりする基礎的な能力を養う。				

年間学習計画	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
	1学期	Lesson 1 World Dance Performance Lesson 2 A Piece of Cake Lesson 3 Quokka	<ul style="list-style-type: none"> 世界のダンスパフォーマンスについて読み、その特徴や起源を理解する。 英語の慣用句についての文章を読み、日本語と英語の違いについて理解する。 オーストラリアの動物「クオッカ」について読みその動物の魅力について学ぶとともに、人間による開拓が生態系にどのような影響を与えているのかを学ぶ。
	2学期	Lesson 4 Designing Stamps Lesson 5 Mont-Saint-Michel Lesson 6 Smart Agriculture	<ul style="list-style-type: none"> 切手のデザイナーについての文章を読み、その仕事の魅力とやりがいについて学ぶ。 世界遺産であるモンサンミッシェルの歴史について学ぶ。また自分で調べた世界遺産についてペアやグループに説明することができる。 スマート農業について書かれた文章を読み、日本の農業が抱える課題について考える。
	3学期	Lesson 7 A Martial Art Tatami Lesson 8 Biologging	<ul style="list-style-type: none"> 競技かるたについて書かれた文章を読み、その魅力について理解を深める。また自分が調べた日本文化について発表することができる。 バイオロギングについて書かれた文章を読みどのような動物の生態が明らかになったのかについて読む。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価 方法	活動観察 ワークシート・振り返りシート 定期考査	活動観察 スピーチ・エッセイ 定期考査	活動観察 プレゼンテーション



教科	家庭科 (2年)	科目	家庭総合	単位数	2
教科書 (出版社)	家庭総合 (実教出版)				
副教材 (出版社)	2023 生活学 N a v i 資料+成分表 (実教出版) 学習ノート (実教出版)				
授業の概要	一人の生活者として自立していくために知識と技術の習得 (家族・家庭 社会生活 (高齢者・社会保障) 生活設計 消費生活 衣生活)				
授業の目標	人の一生と家族・家庭、福祉、社会保障、消費生活、衣生活に関する知識と技術を体験的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				

年間学習計画	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
	1学期	第1章 これからの人生について考えてみよう ①自分の未来予想図を描こう ②これからの人生をデザインする 第2章 自分らしい生き方と家族 ①自立と共生 ②ライフキャリア ③共に生きる家族 ④家族に関する法律 第4章 高齢者とかかわる ①高齢社会に生きる ②高齢者を知る ③高齢者の自立を支える ④高齢社会を支えるしくみ ホームプロジェクト 作成	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が自分らしく生きるために、生涯を見通し一生について考える。 時代とともに変化する家族・家庭の意義や機能を理解し、家族に関する法律を学習する。 高齢社会の現状や介護保険制度のしくみ、社会保障制度や社会福祉について知り、地域での助け合い活動を理解する。 生活課題を見つけ、解決する方法を探る。
	2学期	ホームプロジェクト 発表 第7章 衣生活をつくる ①人と衣服のかかわり ②衣服の素材の種類と特徴 ③衣服の選択から管理まで ④持続可能な衣生活をつくる ⑤私たちがつなぐ衣生活の文化 ⑥衣服をつくろう	<ul style="list-style-type: none"> 生活課題を見つけ、解決する方法を探る。 衣服の機能や役割について理解し、衣服素材の種類や繊維の特徴を理解し用途に応じた衣服選択や管理ができるようにする。作品製作を通じて、裁縫技術を習得する。
	3学期	第9章 消費行動を考える ①消費行動と意思決定 ②消費生活の現状と課題 ③消費者の権利と責任 ④ライフスタイルと環境	<ul style="list-style-type: none"> 消費活動において自立した行動ができる。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	人の一生、家族・家庭、衣生活など生活を健康で安全に営む基本的な知識を習得し、家庭や社会の一員としての望ましい心構えについて理解することができる。 生活に関する課題を解決するための必要な基礎的技術を身に付け適切に活用することができる。	自分や家族・家庭、地域の生活にかかわる課題を見つけ、課題解決のため思考を深め、工夫したり創造したりし、自分の考えをまとめ判断できる能力を身に付けている。課題解決の学習活動で導き出した考えを的確に表現することができる。	人の一生、家族・家庭、衣生活などに関心をもち、家庭や地域への適切な対応を目指して主体的・意欲的に取り組み、実践的な態度を身に付けようとしている。
評価方法	定期考査 学習ノート 実技テスト	定期考査 学習ノート	学習態度 学習ノート 課題の提出状況



教科	商業	科目	ビジネス・コミュニケーション	単位数	2
教科書 (出版社)	ビジネス・コミュニケーション (実教出版)				
副教材 (出版社)	ビジネス・コミュニケーション 準拠問題集 (実教出版)				
授業の概要	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。				
授業の目標	(1) ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して、自ら学び、ビジネスにおいてコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				

学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
年間学習計画	1学期 (1) 企業の組織と人間関係 ア. 企業の組織と意思決定 イ. 業務の進行方法と心がまえ ウ. 人的ネットワークの構築 (2) 応対に関するビジネスマナー ア. 挨拶・身だしなみ・言葉遣い イ. 名刺交換と電話の応対 ウ. 席次のマナー (3) 交際に関するビジネスマナー ア. 交際のマナー イ. 食事のマナー (4) 接客に関するビジネスマナー ア. 接客 イ. ホスピタリティの概念	<ul style="list-style-type: none"> 組織の構造と意思決定の関係を学習する。 業務の適切な進行方法やそれを実践する重要性を学習する。 人的ネットワークや顧客との信頼関係を構築することの重要性を学習する。 場面に応じた挨拶やお辞儀を学習する。 身だしなみ・表情・身のこなしなどを理解し、実践する。 敬語やコミュニケーションの言葉など、適切な言葉遣いを学習する。 電話対応における適切なコミュニケーションを学習する 席次のマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を学習する。 冠婚葬祭の基礎知識、贈答・慶事・弔事などのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を学習する。 効果的な接客に必要な知識や態度について学習する。
	2学期 (5) コミュニケーションの役割と思考方法 ア. 基本と役割と種類 イ. ビジネスにおける思考方法 ウ. ディベート (6) ビジネスにおけるコミュニケーション ア. ディスカッション イ. プレゼンテーション ウ. 交渉と苦情対応 エ. ソーシャルメディアの活用 (7) コミュニケーションとビジネススキル ア. 会議 イ. 文書におけるコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスコミュニケーションの役割と種類、場面と心得を学習する。 論理的な考え方とビジネスにおけるフレームワークを学習する。 ディベートの方法を理解し、主体的に活動に参加する。 ディスカッションの方法や意義を学習する。 プレゼンテーションツールを使い、分かりやすい発表を行う学習をする。 交渉、苦情対応など場面に応じた適切な行動を学習する。 店頭やネットショップ、ワークショップにおける効果的な商品説明について学習する。 会議の目的と種類、基本的な流れや会場設営、議事の進め方や議事録の作成方法などについて学習する。 電子メールの利用、はがきや封筒の書き方や郵便物の特殊なサービスなどについて学習する。
	3学期 (8) 企業活動のグローバル化 ア. 国際化の進展とビジネス イ. 国際ビジネスコミュニケーション (9) ビジネスの会話 ア. 国内での接客 イ. 入国と帰国、商談と会議 (10) ビジネス文書と電子メール ア. ビジネスレターと電子メール イ. 貿易取引とビジネス文書 (11) ビジネスにおけるプレゼンテーション ア. プレゼンテーションの構成 イ. プレゼンテーションの作成	<ul style="list-style-type: none"> 国内で外国人を接客する際に必要となる英語について学習する。 外国に入国する際に必要な英語について学習する。 商談や会議を行う際に必要な英語について実務に即して学習する。 ホテルのチェックアウトから空港での出国手続に至るまで帰国の際に必要な英語について学習する。 ビジネスレターの構成要素と封筒の正しい書き方を学習する。 電子メールの構成とマナーについて理解し、ビジネスメール作成のための基本的な技術を学習する。 ビジネスにおけるプレゼンテーションの基本構成について学習する。 英語によるプレゼンテーション流れを学習する。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている。	自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にビジネスにおいて日本語や外国語を用いてコミュニケーションを図る態度を養っている。
評価方法	ペーパーテスト (小テスト)	ペーパーテスト (小テスト) パフォーマンス課題	ワークシート パフォーマンス課題



教科	商 業	科目	ソフトウェア活用	単位数	3
教科書（出版社）	ソフトウェア活用（東京法令出版）				
副教材（出版社）	令和5年度版 全商情報処理検定試験模擬問題集 ビジネス情報2級（実教出版）				
授業の概要	ビジネスに関する情報を表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを利用して管理、分析、活用する知識や技術の習得。				
授業の目標	(1)企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2)企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。 (3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用の主體的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。				

年間 学 習 計 画	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
	1 学 期	(1) 企業活動におけるソフトウェア活用 (2) 表計算ソフトウェアの活用 ア 情報の集計 イ 情報の分析 ウ シミュレーション	<ul style="list-style-type: none"> 事例「レストラン egg」の概要を確認し、企業はどのような活動をし活動を支えるソフトウェアにはどのようなものがあるのかを理解する。 データを使用目的にあわせて集計するための方法、分析方法について学習する。 コンピュータで模擬的に試行（シミュレーション）して予測をするための方法について学習する。
	2 学 期	(3) オペレーションズリサーチ (4) 手続きの自動化 (5) データベースの重要性 (6) リレーショナルデータベースの概要と設計 (7) データベースの作成と操作 (8) 表計算ソフトウェアによる情報システムの開発	<ul style="list-style-type: none"> 集計、分析データを活用して経営に関する問題発見、解決策を見つける手法について学習する。 繰り返し実行操作の自動化方法を学習する。 データベースの概要や重要性について学習する。 データの正規化と E-R モデルについて学習する。 商品管理についてのデータベースを作成するための方法、プログラミング機能を利用してシステム開発をするための方法について学習する。
	3 学 期	(9) グループウェアの活用 (10) 給与計算ソフトウェアの活用 (11) 仕入・販売管理ソフトウェアの活用 (12) 情報通信ネットワークの導入と運用 (13) 情報資産の保護	<ul style="list-style-type: none"> 組織内の情報共有やスケジュール管理に利用されるグループウェアについて学習する。 給与や所得税・健康保険料などの計算に利用される給与計算ソフトウェアについて学習する。 仕入・販売管理ソフトウェアについて学習する。 情報通信機器の特徴や、インターネットへの具体的な接続方法について学習する。 情報資産を保護する重要性や方法について学習する。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	実務と関連付けて、ビジネスのさまざまな場面で役に立つソフトウェアの効果的な活用に関する知識と技術を身に付けている。	ソフトウェア活用のさまざまな知識、技術を活用して、企業活動における課題を発見しようとし、企業活動に及ぼす影響を踏まえ、最適な解を導き出し、よりよく解決しようとしている。	自らソフトウェアの活用について学ぶ態度を身に付け、組織の一員として自己の役割を認識して、他者との積極的な関わりから、責任をもって取り組む態度を身に付けている。
評価 方 法	ペーパーテスト (定期考査、小テスト) パフォーマンス課題	ペーパーテスト (定期考査、小テスト) パフォーマンス課題	小テスト、取組姿勢 パフォーマンス課題



教科	商業	科目	マーケティング	単位数	3
教科書 (出版社)	マーケティング (実教出版)				
副教材 (出版社)	マーケティング準拠問題集、全商商業経済検定模擬試験問題集 1・2級 マーケティング (実教出版)				
授業の概要	マーケティング・マネジメントのプロセスに沿って、マーケティングの各段階で思考・判断・表現する力を身に付け、マーケティング技法を習得する。				
授業の目標	ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、マーケティングの考え方の広がりに対応し、マーケティングについて組織の一員としての役割を果たすことができる資質や能力を養う。				

年	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
年間 学 習 計 画	1 学 期	(1) マーケティングの概要 ア マーケティングの歴史と発展 イ 現代の市場とマーケティング ウ マーケティング環境の分析 エ マーケティング・マネジメント (2) 消費者行動の理解 ア 消費者の心理と行動の関係 イ 購買意思決定過程 ウ 消費者行動に影響を与える要因 (3) 市場調査 ア 市場調査の概要 イ 市場調査の手順 ウ 仮説検証の手順 エ 実態調査の方法 (4) STP ア セグメンテーション イ ターゲティング ウ ポジショニング	<ul style="list-style-type: none"> マーケティングコンセプトを学習する。 情報環境の変化がもたらすマーケティングを学習する。 マーケティング環境を分析する適切な手法を学習する。 マーケティング・マネジメントのプロセスを学習する。 消費者の購買意思決定過程の流れを学習する。 消費者の意思決定の過程と消費者心理の変化を学習する。 消費者行動に影響を与える要因を学習する。 市場調査の種類を学習する。 市場調査の手順を学習する。 調査計画を立案し、得た情報を科学的に分析する方法を学習する。 調査に必要な情報収集の仕方を学習する。 セグメンテーションの意味と用いられる変数や有効条件を学習する。 ターゲットを発見し、論理的にセグメントを絞る方法を学習する。 STPを総合的に整理し、ターゲットに見合ったポジショニングを考える方法を学習する。
	2 学 期	(5) 製品政策 ア 製品政策の概要 イ 新製品開発 ウ 販売計画と生産計画 エ 製品政策の動向 (6) 価格政策 ア 価格政策の概要 イ 価格の設定方法 ウ 価格政策の動向 (7) チャネル政策 ア チャネル政策の概要 イ チャネルの選択と管理 ウ チャネル政策の動向 (8) プロモーション政策 ア プロモーション政策の概要 イ プロモーションの種類 ウ プロモーション政策の動向	<ul style="list-style-type: none"> 製品の分類の仕方と製品政策の手法と留意点を学習する。 身近な製品ブランドを見つけ、新製品開発に必要なプロセスについて学習する。 売上目標や販売予測の計算方法と販売計画に必要な要素を学習する。 ブランドの役割と身近な企業のブランド要素やイメージを学習する。 価格の種類が分類をし、消費者が価格について持つイメージを学習する。 適切な価格設定方法と計算方法を学習する。 過去と近年の価格政策を比べ、メリットとデメリットを学習する。 商品やチャネル政策の違いについて学習する。 企業形態や商品など条件や状況に応じた適切なチャネルを学習する 製販連携についての取り組みと身近なPB商品の展開を学習する。 プロモーションの手法と消費者の反応段階を学習する。 プロモーションの種類や手法と広告制作を学習する。 身近なメディアのプロモーション政策からどのような効果があるかを学習する。
	3 学 期	(9) マーケティングのひろがり ア さまざまなマーケティング戦略 イ サービス・マーケティング ウ 小売マーケティング エ 観光地マーケティング オ グローバル・マーケティング カ ソーシャル・マーケティング	<ul style="list-style-type: none"> 製品のライフサイクルや市場地位に応じたマーケティング戦略を学習する。 身近なサービスエンカウンターからサービスマーケティングの7Pを学習する。 企業や店舗で行われている小売業のマーケティングの工夫について学習する。 各地域の観光地をマーケティングするためのデータを整理方法と地域の魅力を発信する方法を学習する。 各国の文化の違いや世界から見た日本のイメージによって行われているマーケティングを学習する。 非営利組織のマーケティングと社会的責任のマーケティングを学習する。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングについて、関連する知識と技術を身に付けている。	マーケティングに関する課題を発見し、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価 方 法	ペーパーテスト (定期考査) ペーパーテスト (小テスト)	ペーパーテスト (定期考査) ワークシート レポート グループワーク	ワークシート レポート グループワーク



教科	商業	科目	観光ビジネス	単位数	2
教科書(出版社)	観光学基礎 (JTB総合研究所)				
副教材(出版社)	事例探究ワークブック 観光・地域活性化編 (実教出版)				
授業の概要	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を育成することを目指す。				
授業の目標	(1) 観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
年間学習計画	学期	学習内容(単元・項目)		学習目標	
	1学期	(1) 観光とビジネス ア 観光ビジネスの特徴 イ 観光ビジネスの動向 (2) 観光資源と観光政策 ア 国内の観光資源 イ 観光資源の保護と保全 ウ 観光政策の動向		・企業で行われている観光ビジネスについて学習する。 ・観光ビジネスに関する具体的な課題を設定し、学習活動を通して、観光ビジネスに取り組む。 ・観光資源と観光政策について企業などにおける事例と関連付けて学習する。 ・観光資源の活用に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光資源の活用に関する計画を立案する。 ・観光資源と観光政策について、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光資源の効果的な活用について考える。	
	2学期	(3) 観光ビジネスとマーケティング ア 観光ビジネスの主体 イ 観光ビジネスにおけるマーケティングの特徴 ウ 顧客の理解 エ 顧客サービス (4) 観光ビジネスの展開と効果 ア 観光振興とまちづくりとの関係		・観光ビジネスにおけるマーケティングについて企業に事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を学習する。 ・観光ビジネスにおけるマーケティングに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光ビジネスにおけるマーケティング計画を立案する。 ・地域や年代による味覚や嗜好の違い、ライフスタイルによる旅行目的の傾向など観光ビジネスにおける顧客の特性について学ぶ。 ・観光ビジネスにおけるマーケティングについて自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ学習する。 ・観光による地域の活性化について企業における事例と関連付けて学習する。	
	3学期	イ 観光に関する地域の課題 ウ 地域の活性化		・観光による地域の活性化に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光による地域の活性化に関する計画を立案する。 ・地域活性化に向けた観光ビジネスの展開について学ぶ。	
学習の評価					
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
評価規準	観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に理解している。		ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	観察・ワークシート		ペーパーテスト(小テスト) 観察・ワークシート		観察・ワークシート



教科	商業	科目	原価計算	単位数	2
教科書 (出版社)	原価計算 (実教出版)				
副教材 (出版社)	反復式 原価計算問題集 全商1級 原価計算 (実教出版)				
授業の概要	製造業における原価計算及び簿記に関する基本的な知識と技術を習得し、原価計算の基本的な考え方やその計算方法を正しく理解し、有効に活用する能力を育てる。				
授業の目標	(1) 原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2) 原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。 (3) 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				

年間 学習 計画	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
	1 学期	第1編 原価計算の基礎 第2編 原価の費目別計算 第3編 原価の部門別計算と製品別計算	<ul style="list-style-type: none"> 学習のスタートに当たり、原価計算の基礎的な内容を理解する。 原価計算の一連の流れを理解する。 材料、労務費、経費の支払高と消費高の計算方法、記帳方法について理解する。 部門別個別原価計算の計算方法、記帳方法について理解する。 総合原価計算の種類や特色、手続きの流れ、原価計算表の作成方法や記帳方法について理解する。
	2 学期	第3編 原価の部門別計算と製品別計算 第4編 製品の完成・販売と決算	<ul style="list-style-type: none"> 製品の販売と販売に伴う手続きと記帳方法を理解する。 標準原価計算の意味、目的、特色や仕組みなどの手続きを理解する。 直接原価計算による損益計算書の作成方法を理解し、損益分岐点表により売上高、原価、利益の関係を理解する。
	3 学期	第4編 製品の完成・販売と決算 第5編 標準原価計算の基礎 第6編 直接原価計算の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 標準原価計算の意味、目的、特色や仕組みなどの手続きを理解する。 直接原価計算による損益計算書の作成方法を理解する。

学習の評価			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を身に付けている。	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価 方法	ワークシート ペーパーテスト (定期考査、小テスト)	ワークシート ペーパーテスト (定期考査、小テスト)	ワークシート



教科	商業	科目	財務会計Ⅰ	単位数	4
----	----	----	-------	-----	---

教科書 (出版社)	新財務会計Ⅰ (実教出版)
-----------	---------------

副教材 (出版社)	反復式 会計問題集 全商1級 会計 (実教出版)
-----------	--------------------------

授業の概要	財務諸表の作成に関する知識と技術を習得させ、財務会計の意義や制度について理解させるとともに会計情報を提供し、活用する能力を育てる。
-------	---

授業の目標	<p>(1) 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</p> <p>(2) 企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題対応するとともに、会計の側面から企業を分析する力を養う。</p> <p>(3) 会計責任を果たす力の工場を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
-------	---

	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
年間 学習 計画	1 学期	第1編 財務会計の基礎 1章 企業と会計 2章 企業会計制度と会計法規 第2編 貸借対照表 3章 貸借対照表のあらまし 4章 資産の意味・分類・評価 5・6章 流動資産 7・8・9章 固定資産 10章 負債の意味と分類 11章 流動負債 12章 固定負債	<ul style="list-style-type: none"> 財務会計の機能及び株式会社の基礎的な会計処理について学ぶ。 企業会計制度(原則)の意味を明らかにし、会計法規について学ぶ。 貸借対照表の意味と役割を理解し、資産の評価の意味と損益計算との関係について学ぶ。 流動資産・固定資産の意味と種類、各種計算方法について学ぶ。 負債の意味と分類について、基礎的知識を学ぶ。 流動負債・固定負債の各項目の内容を理解し、正確に会計処理する方法について学ぶ。
	2 学期	13章 純資産の意味と分類 14章 資本金 15章 資本剰余金 16章 利益剰余金 17章 自己株式 18章 新株予約権 19章 貸借対照表の作成 第3編 損益計算書 20章 損益計算書のあらまし 21章 損益計算書の意味と基準 22章 売上高 23章 売上原価、販売費及び一般管理費 24章 営業外費用・営業外収益 25章 特別利益・特別損失 26章 損益計算書の作成 27章 その他の財務諸表 第4編 その他の会計処理 28章 役務収益・役務原価	<ul style="list-style-type: none"> 純資産の意味と分類を明らかにし、内容について学ぶ。 株式会社の資本金の意味と計算について学ぶ。 資本剰余金・利益剰余金の意味を明らかにし、その処理方法を学ぶ。 自己株式の意味を理解し、その取得・処分・消却の会計処理を学ぶ。 新株予約権の意味を理解し、その発行・行使の会計処理を学ぶ。 貸借対照表の諸原則を明らかにし、その作成方法を学ぶ。 損益計算書の役割と区分・様式を正しく学ぶ。 損益計算書の意味と基準について学ぶ。 売上高の意味を理解し、適切な会計処理を学ぶ。 売上原価、販売費及び一般管理費の適切な会計処理を学ぶ。 営業外費用・営業外収益の意味を理解し、適切な会計処理を学ぶ。 特別利益・特別損失の意味と内容を理解し、適切な会計処理を学ぶ。 報告式の損益計算書の作成方法について学ぶ。 株主資本等変動計算書の意味を理解し、作成方法について学ぶ。 役務収益と役務原価の意味を理解し、適切な会計処理を学ぶ。
	3 学期	29章 外貨建取引 30章 税効果会計 第5編 財務諸表の活用 31章 財務諸表のディスクロージャー 32章 財務諸表分析 33章 連結財務諸表のあらまし 34章 連結財務諸表の作成	<ul style="list-style-type: none"> 外貨建取引や税効果会計の意味を理解し、適切な会計処理について学ぶ。 企業と利害関係者及びディスクロージャー、財務諸表分析の意味と方法について学ぶ。 連結財務諸表とはどのようなものか正しく理解し、作成方法を学ぶ。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	財務諸表の作成に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、財務会計の意義や制度について理解し、会計情報を提供し、活用することを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	会計情報を提供し、活用することを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	財務諸表の作成について関心をもち、その諸活動への適切な対応を目指して主体的に取り組もうとするとともに、財務会計の意義や制度についての理解や実践的な態度を身に付けている。
評価 方法	ワークシート ペーパーテスト (定期考査、小テスト)	ワークシート ペーパーテスト (定期考査、小テスト)	ワークシート



教科	商業	科目	ソフトウェア活用	単位数	4
教科書（出版社）	ソフトウェア活用（東京法令出版）				
副教材（出版社）	令和5年度版 全商情報処理検定試験模擬問題集 ビジネス情報2級（実教出版）				
授業の概要	ビジネスに関する情報を表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを利用して管理、分析、活用する知識や技術の習得。				
授業の目標	(1)企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2)企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。 (3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。				

年間 学 習 計 画	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
	1 学 期	(1) 企業活動におけるソフトウェア活用 (2) 表計算ソフトウェアの活用 ア 情報の集計 イ 情報の分析 ウ シミュレーション	<ul style="list-style-type: none"> 事例「レストラン egg」の概要を確認し、企業はどのような活動をし活動を支えるソフトウェアにはどのようなものがあるのかを理解する。 データを使用目的にあわせて集計するための方法、分析方法について学習する。 コンピュータで模擬的に試行（シミュレーション）して予測をするための方法について学習する。
	2 学 期	(3) オペレーションズリサーチ (4) 手続きの自動化 (5) データベースの重要性 (6) リレーショナルデータベースの概要と設計 (7) データベースの作成と操作 (8) 表計算ソフトウェアによる情報システムの開発 (9) データベースソフトウェアによる情報システムの開発	<ul style="list-style-type: none"> 集計、分析データを活用して経営に関する問題発見、解決策を見つける手法について学習する。 繰り返し実行操作の自動化方法を学習する。 データベースの概要や重要性について学習する。 データの正規化と E-R モデルについて学習する。 商品管理についてのデータベースを作成するための方法、プログラミング機能を利用してシステム開発をするための方法について学習する。
	3 学 期	(10) グループウェアの活用 (11) 給与計算ソフトウェアの活用 (12) 仕入・販売管理ソフトウェアの活用 (13) 情報通信ネットワークの導入と運用 (14) 情報資産の保護	<ul style="list-style-type: none"> 組織内の情報共有やスケジュール管理に利用されるグループウェアについて学習する。 給与や所得税・健康保険料などの計算に利用される給与計算ソフトウェアについて学習する。 仕入・販売管理ソフトウェアについて学習する。 情報通信機器の特徴や、インターネットへの具体的な接続方法について学習する。 情報資産を保護する重要性や方法について学習する。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	実務と関連付けて、ビジネスのさまざまな場面で役に立つソフトウェアの効果的な活用に関する知識と技術を身に付けている。	ソフトウェア活用のさまざまな知識、技術を活用して、企業活動における課題を発見しようとし、企業活動に及ぼす影響を踏まえ、最適な解を導き出し、よりよく解決しようとしている。	自らソフトウェアの活用について学ぶ態度を身に付け、組織の一員として自己の役割を認識して、他者との積極的な関わりから、責任をもって取り組む態度を身に付けている。
評価 方 法	ペーパーテスト (定期考査、小テスト) パフォーマンス課題	ペーパーテスト (定期考査、小テスト) パフォーマンス課題	小テスト、取組姿勢 パフォーマンス課題



教科	商業	科目	プログラミング	単位数	4
教科書 (出版社)	プログラミング (東京法令出版)				
副教材 (出版社)	学習と検定 全商情報処理検定テキスト 2級・1級プログラミング部門 (実教出版) 全商情報処理検定 模擬試験問題集 プログラミング 2級・1級 (実教出版)				
授業の概要	プログラミングに関する知識と技術を習得し、プログラムの役割や重要性について理解するとともに、ビジネスの諸活動においてコンピュータを合理的に活用する能力と態度を育てる。				
授業の目標	アルゴリズムについて思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現できるようにする。				

年 間 学 習 計 画	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
	1 学 期	第1章 情報システムの重要性 第1節 情報システムとプログラム 第2節 情報システムの活用	<ul style="list-style-type: none"> 情報システムの概要を理解し、プログラムの役割やプログラミングの意義について学ぶ。 企業活動を支えている情報システムの有用性について学ぶ。
第2章 ハードウェアとソフトウェア 第1節 ハードウェアの機能と動作 第2節 ソフトウェアの体系と役割		<ul style="list-style-type: none"> ハードウェアとソフトウェアについて学び、関連する技術を身につける。 情報システムを開発するためのハードウェアとソフトウェアの効果的な活用方法を学ぶ。 	
第3章 アルゴリズムの表現技法とデータ構造 第1節 アルゴリズムの表現技法 第2節 データ構造		<ul style="list-style-type: none"> アルゴリズムについて学び、関連する技術を身につける。 コンピュータで取り扱われるデータの形式(データ構造)について学ぶ。 	
2 学 期	第4章 手続き型言語のプログラミング 第1節 プログラミングの手順 第2節 データの入出力と演算 第3節 条件判定と繰り返し処理 第4節 配列の利用	<ul style="list-style-type: none"> 手続き型言語のプログラミングについて学び、関連する技術を身につける。 表計算ソフトウェアのプログラミング機能を利用して、実際にプログラムを作成して実行する。 	
	第5章 プログラムと情報システムの開発 第1節 情報システム開発の手順と手法 第2節 プロジェクト管理 第3節 情報システムの評価と改善 第4節 情報システム開発と法規等	<ul style="list-style-type: none"> 開発手順、プロジェクト管理、情報システムの評価、著作権の保護など、プログラムや情報システムを開発するために必要な知識や技術について学ぶ。 	
3 学 期	第6章 手続き型言語を用いた情報システムの開発 第1節 情報システムの開発演習① 第2節 情報システムの開発演習②	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学習してきたことを活用して、実際に情報システムを開発する。 	
	第7章 オブジェクト指向型言語のプログラミング 第1節 オブジェクト指向型言語 第2節 UMLによる図解表現 第3節 オブジェクト指向型言語を使ったアプリ開発	<ul style="list-style-type: none"> アプリ開発向けのオブジェクト指向型言語に関する基本的な知識や技術について学ぶ。 	

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	マクロ言語学習を通して、プログラミングに関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、アルゴリズムの意義や役割について理解している。	マクロ言語学習を通して、アルゴリズムについて思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。	プログラミングについて関心をもち、企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、コンピュータの合理的な活用方法について主体的に探究しようとしている
評価 方法	ワークシート ペーパーテスト (定期考査、小テスト)	ワークシート ペーパーテスト (定期考査、小テスト) パフォーマンス課題	ワークシート パフォーマンス課題



教科	商業	科目	マーケティング	単位数	4
教科書 (出版社)	マーケティング (実教出版)				
副教材 (出版社)	マーケティング準拠問題集、全商商業経済検定模擬試験問題集 1・2級 マーケティング (実教出版)				
授業の概要	マーケティング・マネジメントのプロセスに沿って、マーケティングの各段階で思考・判断・表現する力を身に付け、マーケティング技法を習得する。				
授業の目標	ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、マーケティングの考え方の広がりに対応し、マーケティングについて組織の一員としての役割を果たすことができる資質や能力を養う。				

年	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
年間 学 習 計 画	1 学 期	(1) マーケティングの概要 ア マーケティングの歴史と発展 イ 現代の市場とマーケティング ウ マーケティング環境の分析 エ マーケティング・マネジメント (2) 消費者行動の理解 ア 消費者の心理と行動の関係 イ 購買意思決定過程 ウ 消費者行動に影響を与える要因 (3) 市場調査 ア 市場調査の概要 イ 市場調査の手順 ウ 仮説検証の手順 エ 実態調査の方法 (4) STP ア セグメンテーション イ ターゲティング ウ ポジショニング	<ul style="list-style-type: none"> マーケティングコンセプトを学習する。 情報環境の変化がもたらすマーケティングを学習する。 マーケティング環境を分析する適切な手法を学習する。 マーケティング・マネジメントのプロセスを学習する。 消費者の購買意思決定過程の流れを学習する。 消費者の意思決定の過程と消費者心理の変化を学習する。 消費者行動に影響を与える要因を学習する。 市場調査の種類を学習する。 市場調査の手順を学習する。 調査計画を立案し、得た情報を科学的に分析する方法を学習する。 調査に必要な情報収集の仕方を学習する。 セグメンテーションの意味と用いられる変数や有効条件を学習する。 ターゲットを発見し、論理的にセグメントを絞る方法を学習する。 STPを総合的に整理し、ターゲットに見合ったポジショニングを考える方法を学習する。
	2 学 期	(5) 製品政策 ア 製品政策の概要 イ 新製品開発 ウ 販売計画と生産計画 エ 製品政策の動向 (6) 価格政策 ア 価格政策の概要 イ 価格の設定方法 ウ 価格政策の動向 (7) チャネル政策 ア チャネル政策の概要 イ チャネルの選択と管理 ウ チャネル政策の動向 (8) プロモーション政策 ア プロモーション政策の概要 イ プロモーションの種類 ウ プロモーション政策の動向	<ul style="list-style-type: none"> 製品の分類の仕方と製品政策の手法と留意点を学習する。 身近な製品ブランドを見つけ、新製品開発に必要なプロセスについて学習する。 売上目標や販売予測の計算方法と販売計画に必要な要素を学習する。 ブランドの役割と身近な企業のブランド要素やイメージを学習する。 価格の種類が分類をし、消費者が価格について持つイメージを学習する。 適切な価格設定方法と計算方法を学習する。 過去と近年の価格政策を比べ、メリットとデメリットを学習する。 商品やチャネル政策の違いについて学習する。 企業形態や商品など条件や状況に応じた適切なチャネルを学習する 製販連携についての取り組みと身近なPB商品の展開を学習する。 プロモーションの手法と消費者の反応段階を学習する。 プロモーションの種類や手法と広告制作を学習する。 身近なメディアのプロモーション政策からどのような効果があるかを学習する。
	3 学 期	(9) マーケティングのひろがり ア さまざまなマーケティング戦略 イ サービス・マーケティング ウ 小売マーケティング エ 観光地マーケティング オ グローバル・マーケティング カ ソーシャル・マーケティング	<ul style="list-style-type: none"> 製品のライフサイクルや市場地位に応じたマーケティング戦略を学習する。 身近なサービスエンカウンターからサービスマーケティングの7Pを学習する。 企業や店舗で行われている小売業のマーケティングの工夫について学習する。 各地域の観光地をマーケティングするためのデータを整理方法と地域の魅力を発信する方法を学習する。 各国の文化の違いや世界から見た日本のイメージによって行われているマーケティングを学習する。 非営利組織のマーケティングと社会的責任のマーケティングを学習する。

学習の評価			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングについて、関連する知識と技術を身に付けている。	マーケティングに関する課題を発見し、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価 方 法	ペーパーテスト (定期考査) ペーパーテスト (小テスト)	ペーパーテスト (定期考査) ワークシート レポート グループワーク	ワークシート レポート グループワーク



教科	商業	科目	財務会計Ⅰ	単位数	4
----	----	----	-------	-----	---

教科書 (出版社)	新財務会計Ⅰ (実教出版)
-----------	---------------

副教材 (出版社)	反復式 会計問題集 全商1級 会計 (実教出版)
-----------	--------------------------

授業の概要	財務諸表の作成に関する知識と技術を習得させ、財務会計の意義や制度について理解させるとともに会計情報を提供し、活用する能力を育てる。
-------	---

授業の目標	<p>(1) 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</p> <p>(2) 企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題対応するとともに、会計の側面から企業を分析する力を養う。</p> <p>(3) 会計責任を果たす力の工場を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
-------	---

	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
年間 学 習 計 画	1 学 期	第1編 財務会計の基礎 1章 企業と会計 2章 企業会計制度と会計法規 第2編 貸借対照表 3章 貸借対照表のあらまし 4章 資産の意味・分類・評価 5・6章 流動資産 7・8・9章 固定資産 10章 負債の意味と分類 11章 流動負債 12章 固定負債	<ul style="list-style-type: none"> 財務会計の機能及び株式会社の基礎的な会計処理について学ぶ。 企業会計制度(原則)の意味を明らかにし、会計法規について学ぶ。 貸借対照表の意味と役割を理解し、資産の評価の意味と損益計算との関係について学ぶ。 流動資産・固定資産の意味と種類、各種計算方法について学ぶ。 負債の意味と分類について、基礎的知識を学ぶ。 流動負債・固定負債の各項目の内容を理解し、正確に会計処理する方法について学ぶ。
	2 学 期	13章 純資産の意味と分類 14章 資本金 15章 資本剰余金 16章 利益剰余金 17章 自己株式 18章 新株予約権 19章 貸借対照表の作成 第3編 損益計算書 20章 損益計算書のあらまし 21章 損益計算書の意味と基準 22章 売上高 23章 売上原価、販売費及び一般管理費 24章 営業外費用・営業外収益 25章 特別利益・特別損失 26章 損益計算書の作成 27章 その他の財務諸表 第4編 その他の会計処理 28章 役員収益・役員原価	<ul style="list-style-type: none"> 純資産の意味と分類を明らかにし、内容について学ぶ。 株式会社の資本金の意味と計算について学ぶ。 資本剰余金・利益剰余金の意味を明らかにし、その処理方法を学ぶ。 自己株式の意味を理解し、その取得・処分・消却の会計処理を学ぶ。 新株予約権の意味を理解し、その発行・行使の会計処理を学ぶ。 貸借対照表の諸原則を明らかにし、その作成方法を学ぶ。 損益計算書の役割と区分・様式を正しく学ぶ。 損益計算書の意味と基準について学ぶ。 売上高の意味を理解し、適切な会計処理を学ぶ。 売上原価、販売費及び一般管理費の適切な会計処理を学ぶ。 営業外費用・営業外収益の意味を理解し、適切な会計処理を学ぶ。 特別利益・特別損失の意味と内容を理解し、適切な会計処理を学ぶ。 報告式の損益計算書の作成方法について学ぶ。 株主資本等変動計算書の意味を理解し、作成方法について学ぶ。 役員収益と役員原価の意味を理解し、適切な会計処理を学ぶ。
	3 学 期	29章 外貨建取引 30章 税効果会計 第5編 財務諸表の活用 31章 財務諸表のディスクロージャー 32章 財務諸表分析 33章 連結財務諸表のあらまし 34章 連結財務諸表の作成	<ul style="list-style-type: none"> 外貨建取引や税効果会計の意味を理解し、適切な会計処理について学ぶ。 企業と利害関係者及びディスクロージャー、財務諸表分析の意味と方法について学ぶ。 連結財務諸表とはどのようなものか正しく理解し、作成方法を学ぶ。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	財務諸表の作成に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、財務会計の意義や制度について理解し、会計情報を提供し、活用することを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	会計情報を提供し、活用することを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	財務諸表の作成について関心をもち、その諸活動への適切な対応を目指して主体的に取り組もうとするとともに、財務会計の意義や制度についての理解や実践的な態度を身に付けている。
評価 方 法	ワークシート ペーパーテスト (定期考査、小テスト)	ワークシート ペーパーテスト (定期考査、小テスト)	ワークシート



教科	商業	科目	ソフトウェア活用	単位数	4
教科書（出版社）	ソフトウェア活用（東京法令出版）				
副教材（出版社）	令和5年度版 全商情報処理検定試験模擬問題集ビジネス情報2級（実教出版）				
授業の概要	ビジネスに関する情報を表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを利用して管理、分析、活用する知識や技術の習得。				
授業の目標	(1)企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2)企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。 (3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。				

年間学習計画	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
	1学期	(1) 企業活動におけるソフトウェア活用 (2) 表計算ソフトウェアの活用 ア 情報の集計 イ 情報の分析 ウ シミュレーション	・事例「レストラン egg」の概要を確認し、企業はどのような活動をし活動を支えるソフトウェアにはどのようなものがあるのかを理解する。 ・データを使用目的にあわせて集計するための方法、分析方法について学習する。 ・コンピュータで模擬的に試行（シミュレーション）して予測をするための方法について学習する。
	2学期	(3) オペレーションズリサーチ (4) 手続きの自動化 (5) データベースの重要性 (6) リレーショナルデータベースの概要と設計 (7) データベースの作成と操作 (8) 表計算ソフトウェアによる情報システムの開発	・集計、分析データを活用して経営に関する問題発見、解決策を見つける手法について学習する。 ・繰り返し実行操作の自動化方法を学習する。 ・データベースの概要や重要性について学習する。 ・データの正規化と E-R モデルについて学習する。 ・商品管理についてのデータベースを作成するための方法、プログラミング機能を利用してシステム開発をするための方法について学習する。
	3学期	(9) グループウェアの活用 (10) 給与計算ソフトウェアの活用 (11) 仕入・販売管理ソフトウェアの活用 (12) 情報通信ネットワークの導入と運用 (13) 情報資産の保護	・組織内の情報共有やスケジュール管理に利用されるグループウェアについて学習する。 ・給与や所得税・健康保険料などの計算に利用される給与計算ソフトウェアについて学習する。 ・仕入・販売管理ソフトウェアについて学習する。 ・情報通信機器の特徴や、インターネットへの具体的な接続方法について学習する。 ・情報資産を保護する重要性や方法について学習する。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	実務と関連付けて、ビジネスのさまざまな場面で役に立つソフトウェアの効果的な活用に関する知識と技術を身に付けている。	ソフトウェア活用のさまざまな知識、技術を活用して、企業活動における課題を発見しようとし、企業活動に及ぼす影響を踏まえ、最適な解を導き出し、よりよく解決しようとしている。	自らソフトウェアの活用について学ぶ態度を身に付け、組織の一員として自己の役割を認識して、他者との積極的な関わりから、責任をもって取り組む態度を身に付けている。
評価方法	ペーパーテスト （定期考査、小テスト） パフォーマンス課題	ペーパーテスト （定期考査、小テスト） パフォーマンス課題	小テスト、取組姿勢 パフォーマンス課題

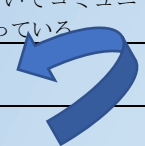


教科	商業	科目	ビジネス・コミュニケーション	単位数	2
教科書 (出版社)	ビジネス・コミュニケーション (実教出版)				
副教材 (出版社)	ビジネス・コミュニケーション 準拠問題集 (実教出版)				
授業の概要	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。				
授業の目標	(1) ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して、自ら学び、ビジネスにおいてコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				

学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
年間学習計画	1学期 (1) 企業の組織と人間関係 ア. 企業の組織と意思決定 イ. 業務の進行方法と心がまえ ウ. 人的ネットワークの構築 (2) 応対に関するビジネスマナー ア. 挨拶・身だしなみ・言葉遣い イ. 名刺交換と電話の応対 ウ. 席次のマナー (3) 交際に関するビジネスマナー ア. 交際のマナー イ. 食事のマナー (4) 接客に関するビジネスマナー ア. 接客 イ. ホスピタリティの概念	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の構造と意思決定の関係を学習する。 ・業務の適切な進行方法やそれを実践する重要性を学習する。 ・人的ネットワークや顧客との信頼関係を構築することの重要性を学習する。 ・場面に応じた挨拶やお辞儀を学習する。 ・身だしなみ・表情・身のこなしなどを理解し、実践する。 ・敬語やコミュニケーションの言葉など、適切な言葉遣いを学習する。 ・電話対応における適切なコミュニケーションを学習する ・席次のマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を学習する。 ・冠婚葬祭の基礎知識、贈答・慶事・弔事などのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を学習する。 ・効果的な接客に必要な知識や態度について学習する。
	2学期 (5) コミュニケーションの役割と思考方法 ア. 基本と役割と種類 イ. ビジネスにおける思考方法 ウ. ディベート (6) ビジネスにおけるコミュニケーション ア. ディスカッション イ. プレゼンテーション ウ. 交渉と苦情対応 エ. ソーシャルメディアの活用 (7) コミュニケーションとビジネススキル ア. 会議 イ. 文書におけるコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスコミュニケーションの役割と種類、場面と心得を学習する。 ・論理的な考え方とビジネスにおけるフレームワークを学習する。 ・ディベートの方法を理解し、主体的に活動に参加する。 ・ディスカッションの方法や意義を学習する。 ・プレゼンテーションツールを使い、分かりやすい発表を行う学習をする。 ・交渉、苦情対応など場面に応じた適切な行動を学習する。 ・店頭やネットショップ、ワークショップにおける効果的な商品説明について学習する。 ・会議の目的と種類、基本的な流れや会場設営、議事の進め方や議事録の作成方法などについて学習する。 ・電子メールの利用、はがきや封筒の書き方や郵便物の特殊なサービスなどについて学習する。
	3学期 (8) 企業活動のグローバル化 ア. 国際化の進展とビジネス イ. 国際ビジネスコミュニケーション (9) ビジネスの会話 ア. 国内での接客 イ. 入国と帰国、商談と会議 (10) ビジネス文書と電子メール ア. ビジネスレターと電子メール イ. 貿易取引とビジネス文書 (11) ビジネスにおけるプレゼンテーション ア. プレゼンテーションの構成 イ. プレゼンテーションの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・国内で外国人を接客する際に必要となる英語について学習する。 ・外国に入国する際に必要な英語について学習する。 ・商談や会議を行う際に必要な英語について実務に即して学習する。 ・ホテルのチェックアウトから空港での出国手続に至るまで帰国の際に必要な英語について学習する。 ・ビジネスレターの構成要素と封筒の正しい書き方を学習する。 ・電子メールの構成とマナーについて理解し、ビジネスメール作成のための基本的な技術を学習する。 ・ビジネスにおけるプレゼンテーションの基本構成について学習する。 ・英語によるプレゼンテーション流れを学習する。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている。	自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にビジネスにおいて日本語や外国語を用いてコミュニケーションを図る態度を養っている。
評価方法	ペーパーテスト (小テスト)	ペーパーテスト (小テスト) パフォーマンス課題	ワークシート パフォーマンス課題



教科	商業	科目	マーケティング	単位数	3
教科書 (出版社)	マーケティング (実教出版)				
副教材 (出版社)	マーケティング準拠問題集、全商商業経済検定模擬試験問題集 1・2級 マーケティング (実教出版)				
授業の概要	マーケティング・マネジメントのプロセスに沿って、マーケティングの各段階で思考・判断・表現する力を身に付け、マーケティング技法を習得する。				
授業の目標	ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、マーケティングの考え方の広がりに対応し、マーケティングについて組織の一員としての役割を果たすことができる資質や能力を養う。				

	学期	学習内容 (単元・項目)	学習目標
年間 学習 計画	1 学期	(1) マーケティングの概要 ア マーケティングの歴史と発展 イ 現代の市場とマーケティング ウ マーケティング環境の分析 エ マーケティング・マネジメント (2) 消費者行動の理解 ア 消費者の心理と行動の関係 イ 購買意思決定過程 ウ 消費者行動に影響を与える要因 (3) 市場調査 ア 市場調査の概要 イ 市場調査の手順 ウ 仮説検証の手順 エ 実態調査の方法 (4) STP ア セグメンテーション イ ターゲティング ウ ポジショニング	<ul style="list-style-type: none"> マーケティングコンセプトを学習する。 情報環境の変化がもたらすマーケティングを学習する。 マーケティング環境を分析する適切な手法を学習する。 マーケティング・マネジメントのプロセスを学習する。 消費者の購買意思決定過程の流れを学習する。 消費者の意思決定の過程と消費者心理の変化を学習する。 消費者行動に影響を与える要因を学習する。 市場調査の種類を学習する。 市場調査の手順を学習する。 調査計画を立案し、得た情報を科学的に分析する方法を学習する。 調査に必要な情報収集の仕方を学習する。 セグメンテーションの意味と用いられる変数や有効条件を学習する。 ターゲットを発見し、論理的にセグメントを絞る方法を学習する。 STPを総合的に整理し、ターゲットに見合ったポジショニングを考える方法を学習する。
	2 学期	(5) 製品政策 ア 製品政策の概要 イ 新製品開発 ウ 販売計画と生産計画 エ 製品政策の動向 (6) 価格政策 ア 価格政策の概要 イ 価格の設定方法 ウ 価格政策の動向 (7) チャネル政策 ア チャネル政策の概要 イ チャネルの選択と管理 ウ チャネル政策の動向 (8) プロモーション政策 ア プロモーション政策の概要 イ プロモーションの種類 ウ プロモーション政策の動向	<ul style="list-style-type: none"> 製品の分類の仕方と製品政策の手法と留意点を学習する。 身近な製品ブランドを見つけ、新製品開発に必要なプロセスについて学習する。 売上目標や販売予測の計算方法と販売計画に必要な要素を学習する。 ブランドの役割と身近な企業のブランド要素やイメージを学習する。 価格の種類が分類をし、消費者が価格について持つイメージを学習する。 適切な価格設定方法と計算方法を学習する。 過去と近年の価格政策を比べ、メリットとデメリットを学習する。 商品やチャネル政策の違いについて学習する。 企業形態や商品など条件や状況に応じた適切なチャネルを学習する 製販車輻についての取り組みと身近なPB商品の展開を学習する。 プロモーションの手法と消費者の反応段階を学習する。 プロモーションの種類や手法と広告制作を学習する。 身近なメディアのプロモーション政策からどのような効果があるかを学習する。
	3 学期	(9) マーケティングのひろがり ア さまざまなマーケティング戦略 イ サービス・マーケティング ウ 小売マーケティング エ 観光地マーケティング オ グローバル・マーケティング カ ソーシャル・マーケティング	<ul style="list-style-type: none"> 製品のライフサイクルや市場地位に応じたマーケティング戦略を学習する。 身近なサービスエンカウンターからサービスマーケティングの7Pを学習する。 企業や店舗で行われている小売業のマーケティングの工夫について学習する。 各地域の観光地をマーケティングするためのデータを整理方法と地域の魅力を発信する方法を学習する。 各国の文化の違いや世界から見た日本のイメージによって行われているマーケティングを学習する。 非営利組織のマーケティングと社会的責任のマーケティングを学習する。

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングについて、関連する知識と技術を身に付けている。	マーケティングに関する課題を発見し、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価 方法	ペーパーテスト (定期考査) ペーパーテスト (小テスト)	ペーパーテスト (定期考査) ワークシート レポート グループワーク	ワークシート レポート グループワーク



教科	商業	科目	観光ビジネス	単位数	3
教科書(出版社)	観光学基礎(JTB総合研究所)				
副教材(出版社)	事例探究ワークブック 観光・地域活性化編(実教出版)				
授業の概要	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を育成することを目指す。				
授業の目標	(1) 観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
年間学習計画	学期	学習内容(単元・項目)		学習目標	
	1学期	(1) 観光とビジネス ア 観光ビジネスの特徴 イ 観光ビジネスの動向 (2) 観光資源と観光政策 ア 国内の観光資源 イ 観光資源の保護と保全 ウ 観光政策の動向		・企業で行われている観光ビジネスについて学習する。 ・観光ビジネスに関する具体的な課題を設定し、学習活動を通して、観光ビジネスに取り組む。 ・観光資源と観光政策について企業などにおける事例と関連付けて学習する。 ・観光資源の活用に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光資源の活用に関する計画を立案する。 ・観光資源と観光政策について、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光資源の効果的な活用について考える。	
	2学期	(3) 観光ビジネスとマーケティング ア 観光ビジネスの主体 イ 観光ビジネスにおけるマーケティングの特徴 ウ 顧客の理解 エ 顧客サービス (4) 観光ビジネスの展開と効果 ア 観光振興とまちづくりとの関係		・観光ビジネスにおけるマーケティングについて企業に事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を学習する。 ・観光ビジネスにおけるマーケティングに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光ビジネスにおけるマーケティング計画を立案する。 ・地域や年代による味覚や嗜好の違い、ライフスタイルによる旅行目的の傾向など観光ビジネスにおける顧客の特性について学ぶ。 ・観光ビジネスにおけるマーケティングについて自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ学習する。 ・観光による地域の活性化について企業における事例と関連付けて学習する。	
	3学期	イ 観光に関する地域の課題 ウ 地域の活性化		・観光による地域の活性化に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光による地域の活性化に関する計画を立案する。 ・地域活性化に向けた観光ビジネスの展開について学ぶ。	
学習の評価					
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
評価規準	観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に理解している。		ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	観察・ワークシート		ペーパーテスト(小テスト) 観察・ワークシート		観察・ワークシート



教科	総合的な探究の時間	科目	単位数	2
教科書（出版社）				
副教材（出版社）				
授業の概要	教科横断的・探究的な学習をとおして、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断できる社会人としての心構えを養う。			
授業の目標	学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。			

年間学習計画	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標	
	1 学期	1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> 手帳の利用を習慣化させ、継続的な活用の基盤を構築する。 ワークシートをとおして、自己の考え方の癖や生き方について考える。 エントリーシートの作成をとおして、自己についての理解を深める。 就業体験をとおし、自己の進路について見つめ直し、今後の学校生活に役立てる。
2		キャリア教育		
3		自己理解ワーク		
2 学期	4	インターンシップ事前指導		
	5	インターンシップ実施		
	6	インターンシップまとめ		
3 学期	7	インターンシップ発表会	<ul style="list-style-type: none"> 自己の体験について分かりやすく発表し、他者の発表を聞くことで、体験を共有する。 テーマに即した情報を収集・分析・まとめることができる。 プレゼンテーションの効果を高めるため情報機器を適切に利用できる。 情報機器を適切に利用して、グループで発表用資料を作成できる。 自分の考え方ことや感じたことを言葉にして表現できる。 文章の書き方について正しく理解し、身に付ける。 	
	8	修学旅行をテーマにした探究学習 ポスターセッション（2年）		
	9	文章力向上指導		
10	10	キャリア教育 外部講演会		<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の講演をとおして、働くことの意義や心構えについて理解し、就業意識を高める。 外部講師の講演から職場における人間関係について多面から考えることで、視野を広げる。また、自分の考えをレポートにまとめる。 課題研究の発表を見て、来年度の参考にする。 履歴書の作成方法について理解する。 手帳を振り返って、1年間の生活について考える。
	11	課題研究発表会見学		
	12	履歴書の作成練習		
	13	1年間のまとめ		

学習の評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	社会人として必要なマナーの知識をもち、適切なコミュニケーション方法を身に付けている。	キャリアプランについて見通しをもち、問題解決を図りながら選択し、計画を立てる実践力を身に付けている。 新たなものの見方や考え方を受け入れ、自分の考えを適切な方法で伝えることができる。	自己のキャリアや社会人として必要な能力についての関心を高め、意欲的に取り組もうとする態度を身に付けている。
評価 方法	ワークシート パフォーマンス課題	ワークシート パフォーマンス課題	ワークシート パフォーマンス課題 観察

